

公式戦注意事項

大項目	中項目	小項目	詳 細
主将会議	会議前	出席者	監督（もしくは代理）および主将（もしくは代理）が基本。但し、正規に事前登録されたメンバーであること。 副将等複数の子どもが会議会場に入場できる場合もある【注 1】。
		服装	子どもは正規のユニフォーム・帽子を着用。（くつは運動靴等）監督は特に制限は無いが、チームユニフォームもしくはスポーツマンらしい服装。
		入場	会議開始時間の 10 分前には会場へ到着していること。 基本的には、監督および主将しか会議会場へ入場できないが、市民選手権（秋季大会）は登録メンバー全員の入場が可能。
		参加費	受付時に大会参加費等を納める場合がある。（確認要）
	抽選後	日程変更願	抽選後に試合日程を変更したい場合は、所定の書式により大会運営者へ届ける【注 2】。
試合前	会場外	雨天時	試合中止判断は会場で行う。
		移動	車を使用する場合は、運営側からの台数制限の指示が無い場合でも最小台数とすること。
		到着	前試合終了 30 分前迄には必ず到着し、その旨を大会本部へ報告【注 3】、その後、速やかに打順表を提出し、登録原簿との照合を受ける。試合の攻守決定は、第 1 試合は試合開始予定時刻の 30 分前、第 2 試合以降は前試合の 3 回終了時、または試合開始予定時刻の 30 分前のいずれか早い方。
	会場内【注 4】	用具準備	速やかにベンチ入りするため、バット（ケース）・ヘルメット（掛け）・キャッチャー防具等の準備を事前に行う。
		練習	球場外でのボールを使用した練習は可。バットの使用は不可【注 4】。 指導者の球場外での練習参加は可。 キャッチャーは防具（マスク・プロテクター・レガース・ファウルカップ）を着用。 センター直後方での練習、用具置き、滞留、カメラ撮影は行わない。（バッター目線に入るため） 打順表交換後、会場内のブルペンで先発バッテリーに限り投球練習をすることができる。
		打順表	会場に着いたら速やかに 4 部（本部用・審判用・アナウンス用・相手チーム用）用意し大会本部へ提出する【注 5】。 規定（複写式）のものを使用し、1 枚目（原本）を含め提出する。 先発メンバーは、フルネームを漢字で記入し、ふりがなをカタカナでふる。控えメンバーは、フルネームをカタカナのみで記入する。女子選手は、背番号を丸で囲う（選手名アナウンス時に性別を考慮するため）。 打順表への記入は、登録された選手全員を記入すること。 また、参加登録書提出後のメンバー変更・追加および背番号の変更是原則として認められない。
		申告・確認	攻守決定時に、試合で使用する捕手用ファウルカップ、サングラスを持参し審判もしくは大会役員による点検を受ける。

			また、テーピング等をしている選手がある場合、当該本人とともにその申告を行う。 グラウンドルールがある場合は、攻守決定時に審判から説明がある。
試合前	ベンチ内	ベンチ入り	<p>ベンチは組合せ番号の若いチームを1塁側とする。</p> <p>選手は登録メンバーで10名以上（厳守）20名以下。</p> <p>監督（30番）・コーチ（29・28番）（以上は成人者に限る）・スコアラー1名・マネージャー1名・代表者1名の最大6名。</p> <p>但し猛暑等の事情により、上記以外に世話役が必要な場合、大会主催者の許可を以って、選手保護者（母のみ）2名のベンチ入りが許される。</p>
		服装等	<p>選手および監督・コーチは、ユニフォーム・アンダーシャツ等、全員同意匠・同色のものを使用【注7】。</p> <p>代表者・スコアラー・マネージャーはスポーツに適した服装。（ユニフォームを着用する場合は、チームと同一の服装とし、上着を着用しない。）</p> <p>サングラスの着装可。但し、帽子に載せる行為は不可。（攻守決定トス時に点検を受ける必要あり。）</p> <p>電子機器類（携帯電話・パソコン等、携帯マイク・カメラ・ビデオ）の持ち込みは不可。</p> <p>メガホンは1個に限り可。</p>
		グランド練習	<p>ベンチ前集合時間まで、選手はグランド内で練習することができる。ただし、バットの使用は不可。</p> <p>指導者は練習に参加してはならない。</p> <p>ブルペンは、先発バッテリーのみ練習可。（キャッチャーは所定の防具着用必須）</p>
		シートノック	試合前のシートノックは行わない。
		用具確認	<p>審判が、バット・ヘルメット等用具の点検を行う【注8】。</p> <p>木製バットの用意は必要なし、但し使用可。</p> <p>バットケース・ヘルメット等は、ベンチ内に入る。</p>
		整列	<p>当該試合の審判クルーが所定の位置に集合したら、ベンチから出て一列に整列。</p> <p>球審の合図により、ホームベース前に整列する【注9】。</p> <p>また、選手以外のベンチ入りメンバーも全員ベンチライン前に出て、同様に整列する。</p>
試合中	全般	試合時間	<p>大会申し合わせ事項に準ずる。《以下一般的規定》</p> <p>時間は90分、7回戦。</p> <p>得点差によるコールドゲームは、3回以降10点差、5回以降7点差。</p>
		延長戦	<p>規定時間（90分）内に7回を終了し同点の場合は、時間内まで通常の延長戦を行う。</p> <p>規定時間終了後に同点の場合は、「タイブレーク方式」もしくは抽選で勝敗を決定する【注10】。</p>
		タイブレーク方式	<p>無死満塁、継続打順で行う。</p> <p>前回の最終打者を1塁とし、2塁・3塁の走者は順次前の打者とする【注11】。</p>
		特別継続試合	<p>暗黒・降雨などで正式試合の成立前に中止になった場合、または正式試合が成立したが同点で試合が中止の場合は、翌日もしくは翌開催日に特別継続試合を行うことがある。但し、詳細は各大会の大会特別規定、または諸実施要項による。</p>

			暗黒・降雨・雷による試合の続行、中断、再開、打ち切りは、審判団の判断に委ねる。
		タイム【注12】	監督（または代行者）が1試合でタイムを取る回数に制限はない（メンバー交代時等）が、投手のところに行ける回数は3回以内とする。なお延長戦（特別延長戦を含む）は、2イニングに1回行くことができる（タイム回数の繰越しはない）。ただし、同一イニングの守備時に2回投手のところに行った場合は、ピッチャーは自動的に交代しなければならない。捕手を含む内野手がピッチャーの所に行ける回数は、7イニングで3回以内とする。なお。延長戦（特別延長戦を含む）は、2イニングに1回行く事ができる。この場合、そこへ監督、または監督代行者が行けば、双方1回として数える。
		攻守交替	交代は駆け足で行う。（遅延行為防止）
試合中	攻撃時	ベースコーチ	1・3塁コーチは、ミーティングに参加せず、速やかにコーチャースボックスへ入る。 必ずヘルメットを着用する。また許可があればグラウンドコートを着用できる。 スプレーやバッティンググローブ等をコーチャースボックス内に置いてはならない（必ずポケットに入れる）。 プレー中に、コーチャースボックス外に出てはならない。 必要に応じた用具の受け渡し以外、ランナーに触れてはならない。
		打者待機	各回の先頭打者は、自ベンチ側のネクストバッターズサークル内で待機する。 回の先頭打者以外、素振りをしてはならない。次打者は座って待機する。 ネクストバッターズサークル内にロジンバッグ等を放置しない。 当該打者・次打者以外の打者は、ベンチ外に出てはならない。
		ボールボーイ	自ベンチ側および本塁後方のファウルボールを処理する。 ベンチ外で待機してはならない。 ヘルメットを必ず着用。（素振り等での危険防止のため） ボールは速やかに球審へ。（ヘルメットは脱がなくてよい）
		バットボーイ	打撃後のバットを速やかに回収。ヘルメットを必ず着用。（素振り等での危険防止のため） ただし、フェアグラウンド内やランナーとの交錯が予測される場合は、球審に任せる。
		サイン	サインを出す際は速やかに行う。また、サインを見る打者はバッターボックスを外さない。（遅延行為防止） 走者やコーチャー、またはベンチからは、球種等を打者に知らせるサインを出してはならない。
		フォアボール	打者（及び走者）は駆け足で進塁する。
		帰塁	ファウルボールでの帰塁は駆け足で行う。 一度帰（触）塁すれば、試合再開の際に触塁していなくてもよい。
		タイム	攻撃時のタイムは1試合に3回以内とする。ない、延長戦（特別延長戦を含む）は、2イニングに1回とする。
	守備時	練習（野手）	投手の投球練習の最終球1球前まで、野手は練習を行うことができる。
		練習（投手）	投球練習は、最大初回5球、2回以降3球。
		練習（捕手）	練習時から防具はすべて着用する。

			<p>攻撃終了時に打者もしくは走者であったため準備が遅れる場合は、代わりの捕手（控え）により投球練習を行う。</p> <p>控え捕手は選手でなければならない。また防具はすべて着用する。</p> <p>規定の練習投球数の1球前が終了しても正規捕手の準備が終了しない場合は、控え捕手は立って、投手とキャッチボールを行ふことができる。</p>
		回頭の声掛け	声掛け時の捕手の立ち位置は、スムースな試合試合進行のため、本塁後方で行う。
		ロジンバッグ	投手板の後方に適度に離し、かつ投手板幅の範囲内に置く。 雨天時は、ズボンのポケットに収める。
		守備位置変更時の練習	<p>投手は規定の練習投球を行う。</p> <p>捕手は練習なし。</p> <p>投手が内野手に変わった時は、そのポジションのみ可能。※交代場所が1塁手の場合は一箇所とのみ練習可能。</p> <p>外野手は、練習を行えない。</p>
		投手の変化球	<p>変化球を投げることは禁止。審判員によって変化球と判断された場合は「ボール」となり、監督及び投手に厳重注意する。</p> <p>注意したにも関わらず、同一投手が同一試合で再び変化球を投げた時は、その投手は交代。</p> <p>その投手は他の守備位置につくことは許されるが、大会期間中、投手として出場することはできない。</p>
		投手の回数制限	<p>投手の投球回数は、1日に7イニングまで。(5年生以上。4年生以下は5イニング。) また、特別延長戦に限り2イニングまで認めるが、この場合、特別延長戦の直前のイニングを投げ切った投手に限り、1日最大9イニングまで投げることができる。</p> <p>イニングの途中で交代した場合も、1イニングと数える。</p> <p>1日に2試合行う場合は、イニング数は累積される。</p>
試合後	片付け	ベンチ	次試合のため、速やかにベンチから撤収すること。
		グラウンド	指導者（大人）は、グラウンド整備に積極的に協力すること。
その他	用具等	ユニフォーム	<p>背番号は下に付けすぎないよう注意。（選手の身長によりパンツに隠れてしまったり、不恰好になる）</p> <p>パンツは怪我防止のため、レギュラーパンツとし、ストレートパンツは不可。</p>
		スパイク	金属歯不可。他は、本体・紐ともに、意匠・色に制限はない。
		グローブ	<p>投手が使用するグローブ本体は一色のもの。縫取り・しめひも・縫い糸を除く。</p> <p>商標マーク・ネーム入れ等も制限があるので注意。</p> <p>また、投手用・野手用の別なく、PANTONE®の色基準14番よりうすい色のグラブを使用できない。</p>
		バット	J S B B公認のもの。（「JSBB」と記されている。木製バットは記載はないが特に持参する必要なし、使用は可）
		抗議権	抗議権を有するものは、監督か当該プレーヤーである。
		手袋	攻撃時のみ使用可能。※表面に名前等を記載しないこと。

《注意事項等》

- [注 1] 市春季・夏季大会（相模原球場）…主将一人しか会場に入れないが、窓から会場内を見る事は可能。
市秋季大会（市民会館）…H21 は 10 名の入場制限。
- [注 2] 修学旅行や授業参観・運動会等の学校行事、もしくは市協会が認める大会（上部大会）以外は認められない。
- [注3] 特に上部大会では、大会本部役員がチーム識別をできない恐れがあるため。
また、自試合より前の試合がコールド等で時間が前倒しになる場合もあるため、考慮が必要。
- [注 4] 会場内とは、使用するグラウンドを含む周辺の区切られたエリア内。会場が小学校や深堀公園であれば、小学校内や深堀の階段下グランド全面が会場内となる。グラウンド（球場）内とはデッドライン内を言う。
- [注 5] 打順表の提出枚数は、「大会注意事項」に準ずる。本部内で事前に登録内容のチェックを行うため、攻守決定の実施前に必ず提出する。
- [注 6] プレーヤーズベンチが設置されていないグランドにおけるベンチ（内）とは、1 墓側および 3 墓側のデッドラインと両端を線で区画された範囲内を指す。
- [注 7] パンツの裾の上げ位置、ソックスの色、スパイクの色に特に注意。
- [注8] バットは、J S B Bマーク・テーピング・凹み等を確認。特に、グリップのテーピングの剥がれには注意。ヘルメットについては、チームマークの剥がれやひび割れ（外部内部とも）、変色による色の不統一に注意。
- [注9] 整列位置は、先頭（主将）がバッターボックスのバックネット寄り外側角から一人分バックネット寄りに立ち、以下選手はバッターボックス外側線に沿う。隣の選手のつま先に合わせて整列すると良い。
- [注 10] 特別延長は 2 回まで。抽選方法は大会によって異なる。例として、終了時の出場選手 9 人によるくじ引きやジャンケンなど。
- [注10] 特別延長の場合のランナーの 3 人は審判が打順表と確認するため、壇上で背番号を審判に向ける。
- [注11] 内野手がピッチャーに近づき過ぎた場合、タイムと判断されることがある。